

第五章 運動の拡大

1 三河にも運動を拡げる

久野、安城農林学校長にお礼の挨拶

東京陳情を終えて、久野さんは、いつものことながら金山橋の弟の肉屋に手土産を沢山用意させて、安城農林学校、後藤一雄校長の所に挨拶に行った。「愛知用水運動のために、浜島辰雄教諭を校務でもない仕事に連日使って申しわけない」と、校内居住の後藤校長にお礼をかねてお詫びのご挨拶に上がったのである。

後藤校長は戦前、台北帝国大学の教授であったが、終戦後、安城農林学校校長として赴任された人で、住宅事情が悪く校内に居住しておられた。

校長からは、「本校は初代山崎延吉校長から、校是として、学問を外に求め、また、学問を外に施すとありますが、浜島君の行動はまさにそれに該当している。心配いりません。浜島君にかわる教諭は沢山おります。心おきなく使って下さい」と快い返事をいただいて、ま

ず一安心した。

悲話『水利史談』を受け取る

明けて昭和二十四年早々、久野庄太郎さんは農林省開拓局に年末陳情のお礼に参上した。開拓局長伊藤佐より、「この本をよく読んで、それでもやる気なら、改めて心を新たにして出てこい」と、『水利史談』（溝口三郎著）という本をもらった。読んでみると、徳川時代以前からの全国の用水建設の悲話が綴ってあった。さっそく本屋にあるだけ、五〇冊を買い、「これを同志に配って読んでもらい、これでもやると決意を固めて用水建設運動を続ける」とお礼を言って帰った。この本には、徳川の昔から用水建設に携わった者が獄死したり、破産、獄門に繋がれて、悲惨な目にあっていることが連綿と綴ってある用水悲話であった。

三河に運動を拡げる

昭和二十四年の年が明け、昨年十月一日以来、用水運動の計画地域を愛知郡、東春日井郡、丹羽郡城東村まで拡げてきた。しかし、地形上、愛知郡日進村、東郷村付近までは標高が八〇メートルから七五メートルぐらいの高さの高地が続いてきたが、東郷村の和合から白土、豊明村の若王子池上から地形が低くなり、水路の標高を二〇メートルぐらい低くしなければならぬ。そこで久野さんと浜島は、地形を再踏査した。

愛知県耕地地課では、日進の岩崎で二〇メートル落とす計画をした。

同盟会の調査では、最初の案通り、長久手の東側から日進の五色園、機織池の東を通り米野木集落の上を通って、海老池上から和合ヶ丘付近で二〇メートルの落差を利用して発電を計画した。

その際、落差を取らない高標高のまま海老池で分水すれば、三好村、猿投村、高岡村、富士松村で、枝下用水で受益を受けることのできない地域約三千ヘクタールの受益地を発見した。ちょうどその当時、三好村には戦前三十五歳くらいで村長になって、農村の不況時代に自力更生運動で名声を上げた久野源蔵という人のいることを思い出した。

いまはたぶん公職追放となっているだろうが、この人と話し合ってみようと、三好村の久野源蔵（一八九六—一九六六）を訪ねた。

久野源蔵氏は三好村の役場で待っていた。愛知用水については、すでに十分知っており、計画に大賛成で、さっそく現地調査することにした。私達は自転車で来たので、久野源蔵氏も自転車で行くことにした。源蔵は身長が一五〇センチそこそこの人であったが、三八インチの自転車を器用に乗りこなして先導された。途中、福谷ふきがいの手前で帽子が風に取られて飛んで行ったので、拾って手渡したら、「ありがとう」と笑顔でお礼を言われた顔がいまも印象に残っている。何となく、人を引きつける人柄であった。

福谷を通り抜け、海老池上で二万五千分の一の地図にあらかじめ予定線を入れておいたので、食い入るように見て、

「よくわかった。さっそく三好村長、保見村の八木村長、高岡村、富士松村の村長に話し、仲間になるから、ぜひ入れてくれ。まもなく、わしも公職追放解除されるが、実務は三好村役場の産業課長、久野尚比古がする」と約束された。

そのあと三好村役場と、保見、猿投、高岡、富士松村でそれぞれ関係実務者の会議を開き、図上と現地で検討の結果、三好村全域、保見村の枝下用水の区域外、高岡村の西山地区、富

士松村の福田、東境、西境地区で約三、〇〇〇ヘクタールの土地に受益できることが認められ、愛知用水の受益地とした。

2 「木曾川総合開発計画の一翼としての

愛知用水計画趣意書、同付図」作成、陳情に利用

「愛知県には木曾川、矢作川及び豊川の三川が存在し、流域の民衆は広くその恩沢に浴しております。然し名古屋市及び春日井市、瀬戸市、半田市をはじめ、丹羽、東春日井、愛知及び知多の四郡を含む尾張東南部一帯及び西三河の一部は地勢の関係上、不幸にして上記河川の流域から外れ、往昔以来農業用水の不足に悩まされ、工業用水にも甚だしく不自由を感じているのであります。殊に愛知、知多及び東春日井の三郡の如きはその程度が甚だしく、少し日照りがつづけば随所に激しい水不足を生ずるなど、昔から並々ならぬ辛苦をつづけてきました。従つて古来より用水路の開鑿は既に幾度か企図せられました。

然し時運に恵まれず、技術、資金もともなわず、今日までその達成を見ることが出来なかつたのであります。私共がこの際発願いたしました愛知用水の計画は水源を木曾川上流に発し、水路を丹羽、東春日井及び愛知の各郡にとり、西三河にも分水して知多郡に入り、郡内の背嶺山脈の間を縫つて半島の先端師崎港に導水する計画であります。その幹線の延長は百二〇キロメートルにわたり、その間農業用水として三万八千町歩を灌漑し、約五〇万石の米麦並びに約二千万貫の甘藷を増産する外、各種の果樹園芸作物及び畜産の發達に資し、尚沿線都市農村の飲料用水、工業用水、防火用水、衛生用水及び漁業用水等に利用する計画であ

りますが、就中名古屋市その他沿線諸都市における各種産業の発達に資したき存念であります。

現在の日本は経済復興、恒久平和の実現を念願しておりますが、平和の基礎は食糧の完全なる自給にあると考えられます。現在の日本はアメリカ国民の好意により食糧の補給を受けておりますが、日本国民の生活安定の基礎は食糧の自給によつてのみ実現せられるものと考えます。

近年山林の濫伐により木曾川の洪水が深く危惧せられ、巨額の経費を投じてその護岸補強工事を進めつつあることは既にご承知の事柄であります。之のみを以て木曾川の水災を完全に防除することは到底至難ではないかと考えます。一度び木曾川の堤防にして決壊せんか、その被害は少なくとも二千億円を下らないものと見られております。往年帝都を脅威せる利根川の決壊は多数人畜の生命を奪える外、約三千億円に上る損害を生じたと伝えられておるのを見れば、およそ思い半ばに過ぎるものがあります。若し愛知用水を包含する木曾川総合開発計画が実現し、木曾川上流に適當なる貯水施設が整備せられるならば、木曾川の水源地帯の雨水及び雪解水はその全てが計画的に貯溜せられ、年間を通じて計画的に放流せられることとなるため、木曾川の洪水問題は永久的に緩和せられるのみならず、従来は徒らに放流せられし水が全て完全に各種の用途に活用せらるることとなりますのであります。之によつて木曾川水系に存在する既設の各用水、即ち木津用水、宮田用水、佐屋川用水（以上愛知県）及び羽島用水（岐阜県）並びに愛知岐阜両県下の関係水運業者達が年間を通じて大なる利便を受くるに至ることは今更言うまでもありません。

我が国は現在国家産業再建の必要に迫られており、水災の防除、電源の開発及び食糧の増

産等を強く要請しておりますが、木曾川総合開発計画乃至愛知用水計画こそは正しく之等の
変転により、官界及び民間産業界より相当大量の失業者が発生する虞があると伝えられてお
りますが、若し果してその如き情勢にあるものとするならば、之等の失業者を吸収するため
の公共土木事業として、本計画は相当有意義なる役割を担うものと信じます。

伝聞するところによれば、アメリカにおいては先年T・V・Aと称せらるるテネシー河域
の総合的開発事業に成功し、あらゆる方面にわたって驚くべき成果を挙げているとのこと
ありますが、我々の計画はその規模小なりと言えども、はるかにT・V・Aの業績に学び、
いわば日本型T・V・Aの実現を期したき念願であります。

以上の趣旨により私共は昭和二十三年五月以来、木曾川総合開発乃至愛知用水計画期成の
ための運動をつづけております。希くば私共の微衷を諒せられ、之が達成のために関係各当
局並びに江湖有識各位の深きご理解と格別のご援助とを懇願してやまない次第であります」

愛知用水期成同盟会

会長 森 信 藏

(事務所 半田市役所内)

「愛知用水計画参考資料」

1. 導水路延長 幹線一二〇キロメートル、支線一二〇キロメートル
2. 導水路規模 毎秒三〇立方メートルを通航し得る程度の規模とし、セメントコンク
リート造りとす。

3. 灌漑期用水量 毎秒三〇立方メートル以内
4. 開鑿経費 (用水路関係) 約五〇億円
(ダム関係) 約二〇〇億円
5. 受益面積
既設田畑 三〇、〇〇〇町歩
計画田畑 八、二〇〇町歩
6. 経済効果
 - A 農林関係
 - (1) 米麦増産額 約五〇万石
 - (2) 諸類増産額 約二、〇〇〇万貫
 - (3) 果樹、園芸、畜産、水産増産額 約二倍程度見込
 - (4) 農村工業の振興 約二倍程度見込
 - (5) その他砂防、植林、林道の開発
 - B 電力関係
 - (1) 既設水力発電 五五四、〇〇〇キロワット
 - (2) 計画水力発電 二二一、〇〇〇キロワット
 - (3) 用水用自家発電 一、五〇〇キロワット

その他貯水による渇水時増発電莫大の見込
織布、染色、醸造、陶磁器及び製氷、冷凍等工業に対し莫大なる効果
ある見込
 - C 商工関係
 - D 洪水調節関係
木曾川下流地区一帯
 - E 舟航関係
木曾川本流及び導水路線における舟航増加の見込

7. 文化的効果
 - A 保健衛生関係 飲料用水、都市道路及び下水並びに港湾浄化等
 - B 消防関係 関係市町村に対し防火用水の増給
 - C 観光関係 多数の観光地出現の見込
8. 社会的効果 失業救済 延数千万人に授職の見込
9. 気象的效果 降雨量の増加並びに気温の上昇ある見込

以上

(昭和二十五年二月印刷)

流域住民に配布したチラシ

「流域住民へのお願い」

「ヨーロッパの北の方に、デンマルクという豊かな平和の国があります。この国は、百数十年前に国をあげた戦にやぶれ、領土の半分以上をなくしてしまいました。そしてあれはた土地と、つかれ切った人だけが残り残りました。これを今日の立派なデンマルクに築き上げたのは、皆さまの小学五年の「緑の国」の「もみの林」に出て来る、ダルガス父子とゲルント・ウイークという人の教育の力であります。人々も、この教育と、ダルガス父子の仕事に奮い立って、一生けん命に努力したからであります。

昔から、生きものは水から生れ、文化は水のほとりに発達する、といわれ、アメリカにおいても、テネシー河を科学の力で治めた話は有名で、T・V・Aと申しまして、あれはたこの河の上流に沢山のダムを造ることによって、今まで暴れん坊であった大水

をなくし、その力を発電にふり向け、舟で交通の便を良くし、工業を発達させ、土地に水や、良い肥を沢山施し、二十年もたたない間に立派な土地にしてしまいました。ここで特に目立つのは、このテネシーの流域に住んでいた人々が、自分達の住む土地は、自分達で良くするんだと、進んでこの仕事をなすとげたことであります。アメリカの民主主義は、ここで実を結んだといわれます。

今度私達の住む、この土地を日本の T・V・A、日本のデンマルクにするために、愛知用水が造られようとしています。

愛知用水というのは、木曾川の水を、岐阜県の兼山かねやまという所から、犬山市、東春日井郡、愛知郡を通って、知多郡の師崎もろざきまで流し、長さ百二十軒の間、人工の河を造ることで、河に水が不足するときの用意に、御嶽山の麓かふちに大きなダムを造るのであります。

この用水が出来る時、田んぼの水不足がなくなり、禿山はげやまには緑の木が茂り、みずくした牧草が伸び、田や畑が新しく開かれ、畑にまで日干ひでりつづきの時には水がかかり、特にスプリンクラーという機械で、人工の雨が出来る。これによって、日本の国に不足する、お米や、乳がどっさりとれ、村や町の至る所に水道がひかれ、工業が起って、本当に幸な土地になります。

さあ！ 皆さま、愛知用水を造ることに力を合わせましょう。近くこの用水を造るために世界銀行の人々が、直接皆さま方のお父さま、お母さまに、話を聞きに来ます。

この人達が、こられたら、村の人も、町の人も一緒にあって、お父さまやお母さまも皆さまと共に、愛知用水が一日も早く出来ることを心から望んでいることを御話ししましょう。

昭和二十六年六月二十日

愛知用水期成同盟会

(このチラシは世銀調査団来日にそなえて、地元小学校を通じて父兄に配付した。九万枚)

浜島辰雄、半田高等学校に転勤

戦後、昭和二十四年四月一日付で、日本の教育制度の大改革が行われた。

いわゆる六三三制の実施による転勤で浜島は半田高等学校農業課程（それまでの半田農学校）に転勤となった。

さっそく久野庄太郎さんは浜島を伴って、森信蔵半田市長、中川益平武豊町長、田村金平農業会半田支所長に挨拶に行き、喜ばれた。

3 農林省開拓局の第一回現地調査

吉田総理に対する直接陳情も効を奏し、農林省開拓局としては、昭和二十四年度調査予算に愛知用水の直轄調査予算を組むことができ、第一回の現地調査を実施するから案内人を派遣せよとの通知があった。

水源地現地調査

現地調査・木曾川上流、水源地となるダム予定位置の調査。

昭和二十四年七月三十日より約一週間。ちょうど夏休みに入り、学校の農業実習を早めに

終わり、浜島が現地案内することになったが、期成会も金が集まっていないので、半田農学校の農場の特別会計の金十五万円を借りて調査団の案内をした。七月三十一日、上松泊。

水源ダム調査団メンバーは次の通り。

団長 農林省開拓局資源課長 伊藤茂松

同次長 専門官 佐々木四郎

調査員 牧野事務官ほか二名

地質専門官 堀田正弘博士

(イ) 滝越ダム調査——王滝川最上流、三浦ダムに行く(八月一日)

早朝の森林鉄道で上松から直行。王滝川に沿って、水と新緑を縫って森林鉄道はどんどん上昇、真夏といえども涼しい。標高一、三〇〇メートル。最上流三浦ダム。満々と水をたたえ、貯水量五千万立方メートル。調査団の落合事務官が水泳着一つになって、取水塔から飛び込んだ。私は驚いたが、彼は極東オリンピックの高飛込みのチャンピオン。深い所は水が冷たいと言った。たぶん、躍層(七メートル)以下に入ったのである。「気分爽快」と言う。昔平家の残党が隠れていたといわれ、その名を取って三浦^{みうれ}ダムという。

滝越ダムは貯水量約一億立方メートル。

浜島が考えた、第一の候補地。ダムサイトは石英斑岩で最高、しかし、現ダムサイト左岸が三千万年前、御嶽山爆発以前まで王滝川の河床で、爆発時、火山噴出物で埋まり、現河床より四〇メートル低く、貯水した場合に漏水の心配あり、ダムサイトとしては不適。

(ロ) 藪原ダム(八月二日)

木曾川の本流、JR藪原駅の下流のトンネル付近に最適のダムサイトあり。しかし、中央

線、同藪原駅、藪原全村水没四五〇戸、移転不可能。貯水量一億三千万立方メートルあるも諦めるほかなし。

(ハ) 最後の一つ、現在関西電力が着工準備中の丸山ダム岩盤上九八メートルを一三二メートルに変更し、その間、貯水量増分約一億立方メートルを愛知用水に利用する案に期待して、第一回の現地調査を終了して引き揚げた。

受益地の土壌調査

引き続き、土壌調査の専門家弘法建三博士、前岐阜大学太田更一氏らによって岐阜県内から愛知用水受益地区全域にわたって調査が行われ、私（浜島）が全域について案内した。岐阜県内の土壌は現地、花崗岩、秩父古成層の風化土であるが、愛知郡、知多半島は第三紀ないしは洪積時代の火山灰の堆積したものが多く土壌浸蝕を受けやすく、畑地灌漑、開墾開発について現地でそれぞれ対策を実施すべきである。

幹線水路の調査

—— 幹線水路の予定位置、及び主なる構造物

農林省開拓局、設計課の専門官、元三重大学農業土木教授松田俊正氏の調査。浜島の恩師であり、高蔵寺サイフォンなど大きな構造物もあり、延々一二〇キロの調査もきわめて順調に終了。

丸山ダムの嵩上げ

丸山ダムは木曾川下流の発電と洪水調節のできる期待のダムで、昭和十八年着工したが、戦争激化で工事中止。戦後復興計画に基づいて前計画を踏襲し、着工を急いでいた。そこで農林省は、丸山を愛知用水のメインダムとして利用する決心をして、国土開発審議会に丸山ダムの嵩上げ計画を提訴し、農地局長名で、資源庁電力局長に、現計画貯水量千八百万立方メートルを一億立方メートルとして、ダムの標高を三五メートル上げることが公文書をもつて要請した。電力局長はこれに対して、昭和二十五年六月二十九日付で次のように回答してきた。

「丸山ダム建設に当っては、比較一覧表の通り有効貯水量一億立方メートルとする場合は、電力部門以外の負担金およそ七十億円に達し、その効果に対し、過大の負担となると認められるので、木曾川水系の灌漑用水補給は、丸山ダムのみに依存せず、他のダム計画についても調査せられたい」

しかし単独で一億立方メートルのダム建設と詳細の比較をすれば、必ず丸山ダム嵩上げの方が有利であったと思われる。平成の現在、同計画の嵩上げが提起され着工されているものであれば、あの時嵩上げておくべきでなかったか。

二子持ダムの台頭

その頃、関西電力株式会社の名古屋支店長石川栄次郎氏から、久野庄太郎さんに「丸山ダム嵩上げの件について、関西電力名古屋支店にお越し願いたい」との連絡があった。久野さ

んは、浜島を帯同して、名古屋市高岳町にある関西電力の名古屋支店に出かけた。久野さんは関西電力名古屋支店長に面識があったようであるが、浜島は初対面であった。

まず、御足労をねぎらう言葉があり、「時に、あなた方が丸山ダム嵩上げによって、愛知用水の水源ダムとしたい提案をされて、関西電力は丸山ダムの着工が三年遅れた。この電力事情の緊要な時に発電ができず関西電力はウン拾億円の損害だ。どうしてくれませんか」と凄まじい。石川支店長は達磨さんだるまのような相貌の人、迫力がある。さすがの久野さんも返事ができない。

私も若かった。黙っているわけにはいかない。「石川さん、木曾川は関電の川ですか。地域住民の川だと思えますが、地域住民の川であれば、関電が何十億円損であろうと、ここで考え直してもらえませんか」とやった。達磨さんの顔が真っ赤になってきた。私は、ここで一喝、喰らうことを覚悟した。「こら若造、木曾川と関電の長い歴史も知らずに生意気言うな」と、ちよつと緊張の時間がつづいた。

しばらくすると、石川支店長の顔が急ににこやかにになって、「よしわかった。飯を食いに行こう」ときた。役者が一枚も二枚も上だ。私達貧乏人の行ったこともない三翠楼に連れて行かれた。そこでの話は、「木曾川の支流王滝川の御岳発電所の上に二子持という地点がある。戦前から間組はなぐみが発電所建設調査をやっている。一億立方メートル以上水が溜まる。資料を全部渡すから、農林省に持って行って検討してもらってくれ」ということになり、後は和やかに身の上話や木曾川の苦労話、生まれた刈谷の小垣江の話、明治用水の話も出て、「協力を惜しまない」と誓い合った。日ならずして、久野さんは二子持の資料をもらい農林省に行き、農林省の二子持調査が始まった。